

平成27年度座談会「町長と語ろうまちづくり」（清水地区）

開催日時	平成27年10月7日（水）午後7時から午後9時	天気 晴れ
場所	清水ふれあいセンター	
町民参加者	男38人 女5人 （50代4人、60代以上39人）	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、総務防災課長、環境農林課長、商工観光課長、新東名対策室長、事務局2人	

出席者から出された主な意見や提案

- テーマ
- ①旧清水小・中学校跡地活用の長期ビジョンづくり
 - ②スマートインターを活用した地域づくりの共同提案
 - ③鳥獣被害の抜本対策

《テーマ：旧清水小・中学校跡地活用の長期ビジョンづくり》

- 清水小中学校跡地利用については、当面新東名高速道路建設業者の宿泊・管理施設として利用する計画があるというのは聞いているが、中日本高速道路によると来年度から工事用道路の工事に着手をしたいという話を聞いている。現段階において、中日本高速道路との打合せや交渉の状況はどのようにになっているのか。
- 清水小中学校跡地利用の問題は、町と地域が力を携えて解決していくことが必要であると思うが、例えば地区で清水小中学校の跡地利用の委員会を立ち上げた際には、意見を取りまとめて町に提案するなどを実施していきたいと考えている。
- 平成32年度には新東名高速道路が供用開始となる計画になっているが、順調に進むと平成32年度末には新東名高速道路の建設関係は撤退すると思う。撤退した以降の跡地利用については町としてどのように考えているのか。
- 清水小中学校の跡地利用は、現段階では新東名高速道路の工事関係者が使うという話だが、工事が終了して関係者が撤退した時には何かしらのものでできているというのが、活用という面では大事になってくるのではないかと。インターから下りてくるルートにループ橋みたいなをつくって、清水小中学校跡地につながるようにするとインパクトがあるのではないかと。さらには、そこにスクールバスの発着所を置いて、学童保育所を設置するなどすれば、子育て世代が住みやすい地域にもなるのではないかと。

《テーマ：スマートインターを活用した地域づくりの共同提案》

○スマートインターを出た沿道に町の花の「やまぶき」を植栽したらどうか。また、中川から犬越路林道を抜け道志村方面へ、浅瀬から山中湖方面に抜ける道をつくり、観光ルートにしてはどうか。

○スマートインターが開通すると、やまなみ橋を車が対面通行することになるが、現在のやまなみ橋はセンターラインがなく、橋の上流側に1 mくらいの幅で線が引かれていて、そこを人が歩くような状況である。対面通行するとなるとその幅員がなくなってしまう問題が出てくる。

《テーマ：鳥獣被害の抜本対策》

○鳥獣害対策については、インターネットを見ると1市5町で取り組んでいるようだが、特に山北町はイノシシとかシカの捕獲数が一番多いと聞いている。捕獲したイノシシやシカを活用して地域おこしの名物にしてはどうか。また、サルの被害対策はなかなか難しく、ロケット花火などで対策しているが一時的なものであるので、できれば発信機をつけるなどの対策ができないか。

○イノシシ、シカのジビエ料理を町の特産品にするという考えはあるのか。

○今後の考え方として、民間会社が捕獲からジビエまでをやる方法もあるのではないか。民間会社が参入すれば効果が上がるのではないかと思う。

《テーマ：町政全般》

○御殿場沿線の首長が集まって、JR東海に対して運行本数を増やすなどの要望活動をされていると思うが、その辺の経過を教えていただきたい。

○県知事が「未病を治す」取り組みを進めている中、小田原市内にある三菱化学という会社が、未病産業のブランドに認定されたという記事を見た。県西地域において、こうした取り組みが充実している中で、町としても未病産業のブランド化を考えても良いのではないか。